

理研會報

登行  
印教研理科研究部  
事務局  
成田市幸町948-1  
成田川学校内

一応の完成をみたものである。

子ども達に望ましい変化が生まれ  
つつある。

植物栽培の歴史

北迈田川

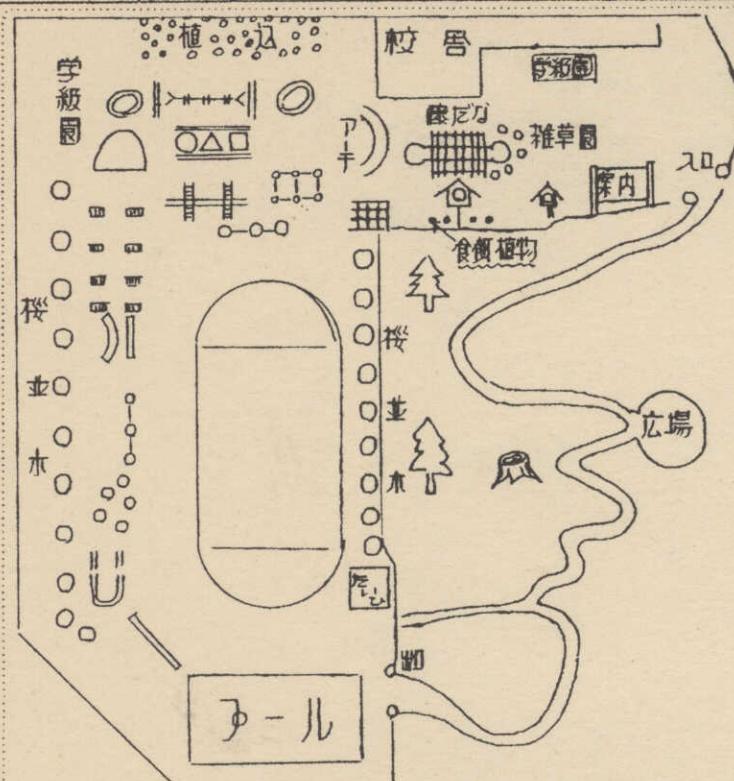
山

崖文雄

四

## 総合的な学習コースの設定とその利用

「どこのか遠くの深い山の中に、突然迷いこんでしまってよくな錯覚を起こしてしまいました」とは、この春本校に赴任してきた先生の弁。この日はじめて「私の子学習コース」を歩いての感想である。本校の南側は急斜面で、沢山の杉が生え茂林になっている。但木や下草が生え繁り、鳥や虫なども多いためこの林の中に、自然ができるだけそのまま残しながら、総合的的学習コースとしてつくづく祀るのが本校の「私の子学習コース」である。父母・地域の協力を得て、昭和五十七年度から整備を始め、教育費の交付も受けながら、昨年秋



資料

(1) コースの概要

遊歩道—道巾一メートル、長さ八百メートル。起伏に富んでいる。自然保護のため、この道だけを通るようにしている。子ども達が「ワーキングコースと名づけた近道がある。

広場—コースの中間に一箇所だけ下草刈り、左広場がある。等級単位の集会活動などができる。名札—木や下草の名前の表示してある。また、子ども達の知っている歌に出てくるものは、楽譜と歌詞もつけた。これを見て歌いながら歩く子も多い。和歌などに詠まされたものは、その歌をつけてりしている。

給餌台と巣箱—小鳥のためのもの。愛鳥クラブの子ども達が粗食の残飯などをやっていている。

(2) コースの活用

このコースは単独のものとしてつくられたものでない。本校では、自らの目あてをもって体を鍛え、最後までやりぬく心を育てる場であり、あたたかい人間関係を生み出す楽しい別れあいの場であり、そしてまた教えるものではなく、子ども達を育てる学習の場でもあると位置づけている。

総合的な学習コースとして、他の子コースの活用をどのようにするかが、今年度の課題である。実のところ計画段階だけは既に昨年度から始まっている。

。自然観察コースとして——学級だけで実施している。

。理科学習の場として——二年、「虫をさがせ」三丘、「させつ」と生きものの様子」六年、「植物どうしの関係」など。

。学生の場として

- 。学級会の集会活動
- 。野外での合唱練習(クラブ)
- 。野外給食の会場

(3) 今后の課題

- 。教育課程と関連づけた学習コースの設定
- 。発達段階・季節を考慮した学習内容と主題の工夫
- 。組織の工夫

計画より活動が先行しているが、本校の実情である。しかし、昔花や樹木の名前を知っている子どもが増えるなど、子ども達には、ますます変化が見られてきている。他の子コースは、自らの目あてをもって体を鍛えた結果、心を育てる場であり、温かく、子どもを育てる学習の場でもあると位置づけている。

八四季折々の花が楽しめる花だらく  
北辺田小を訪ねて来られたる人か  
ら、「リツ来ても花だんに花がい、  
はいですね」とよく言われる。う  
れしことある。花だんの管理  
といつても特別なことをするわけ  
でもない。花の育て方と遊び方に  
次のような事を留意している。

(一)栽培が容易で、根つきがよく、  
乾燥に強く丈夫な種類を選ぶ。  
(二)芯をつむなどして背丈を高くし  
たりうつにする。

どんな種類の花を栽培し左か、  
挙げてみると、

春— テューリップ・デージー・パ  
ンジー・さくら草・ノースポー  
ル・姫きんぎす草・花びし草  
夏— 松葉ボタン・千日紅・百日  
草・マリー・ゴールド・ちどり草  
ペニニア・日々草

秋— コスモス・菊・葉ぼいとう  
ベガニア・サルビア

一年を通して楽しめるも  
ゼラニウム

などである。

へ子どもが作る学級園・一鉢栽培  
どこの学校にも学級園はあると  
思つが、本校が特に気をつけている  
点は、  
(一)連作の害を与えないという配慮  
がう同じ畑を一年から六年まで続  
けて使うよつとしている。

(二)どれを種や球根は次の学年にゆ  
する。

(三)教科とする植物以外にも好きな  
植物栽培の  
北辺田小山岸文雄

八学区は自然観察教室

大利根の流域を利用した水路が  
縱横に走る須賀新田地区、渓谷(こ  
そなりが、うそぞうなる森林を思  
わせる興津、矢口の高台、一枚三  
反から四反区切りの大型水田を持  
つ北辺田、麻生、学区は文字通り  
水と緑に恵まれた環境にある。(こ  
うした環境の中で、身近な自然に  
親しみ接する機会ができるだけ多  
くとり入れて学習を進める工夫を  
している。

一年では、春、しきつめ草の群  
生地に連れて行き、心ゆくまで遊  
ばせてやり、秋、近くの山で木の  
実の集め競争をさせ走りしている。

五年では、植物の成長と環境の  
ウキワの実験も、近くの水田を  
観察して、初めてその実証ができ  
る。

六年の地図の学習も、近くの  
露頭でその雄大なありわれを実感  
としてどうさせている。

こうした試みは、すべて御工の  
自然から学び、自然を理解し愛す  
る子どもを育てほしいと願つた  
のである。